

**みんななかまの活用**  
**「トマトちゃんとキュウリくん」(第24集)**

**ねらい** ○友だちと一緒に毎日世話をすることで命の大切さに気づく。  
 ○トマトやキュウリの生長に期待をもつ。

**対象** ○二年保育年長児

**展開例** パネルシアターを使って（視聴後の話し合い）

教師の発問	幼児の言葉
<p>「どうしてトマトちゃんは元気がなくなったのかな。」</p>	<p>「水がなくなったから。すごく暑かったし。」</p>
<p>「そうやね、どうしたら元気になったのかな。」</p>	<p>「一杯水あげたから。」</p>
<p>「みんなもこんなことなかった」</p>	<p>「あったよ。僕のトマトしょんぼりしていたから、一杯水あげたよ。そしたら、帰る時元気になったよ。」</p>
<p>「よかったね。〇〇ちゃんは、次の日からお友だちのトマトにも水あげてくれていたね。」              と自分から進んで水やりをしてくれたことを認める。</p>	
<p>「みんなは水やり、ちゃんとできているかな。」</p>	<p>「お水あげてるよ。」              「一杯あげてる。」              「僕、あげるの忘れるときもある。」              と口々に言う。              「私も暑かったらのだかわくのとおなじことや。」</p>
<p>「そうやね。トマトちゃんやキュウリくんは『水が欲しいよ。のどがかわいたよ』と言えないから、毎日水やりしたり草引きをしたりして世話をしようね。」</p>	

	<p>「みんなでお水あげないとだめ。」  「葉っぱにあげないで根っこにあげたら喜ぶよ。」</p>
<p>「そう、よかったね。おうちの人と一緒にとお料理してもらおうね。」</p>	<p>(何日かして)</p> <p>「〇〇ちゃんのトマトちょっと赤くなってきたよ。」  「僕のトマト、赤くなったよ。」</p>
	<p>(収穫後)</p> <p>「お母さん、サラダにしてくれたよ。おうちのみんなで、分けっこして食べたよ。」</p>

教材

- 「みんななかま」第24集
- パネルシアター

## トマトちゃんとキュウリくん

5月の、ある晴れた気持ちのいい朝。トマトちゃんとキュウリくんの苗たちは、おじさんのトラックに乗せられてどこかに運ばれることになりました。

「ねえ、トマトちゃん。ぼくたち、どこに行くんだらう。」

「そうね。ガタガタするし、まっくらだし・・・。」

トマトちゃんとキュウリくんは、トラックの中でとても心配です。ガタガタゴトゴト。しばらくすると、トラックが止まりました。

「あれ、止まったよ。」

「ここは、どこだらう。」

と話していると、急にまわりが明るくなり、どこからか、かわいい笑い声や歌声が聞こえてきました。

ここは、すみれ幼稚園です。幼稚園の子どもたちがトマトちゃんとキュウリくんの来るのを楽しみにしていたのです。



トマトちゃんとキュウリくんは、早くトラックから降りたくてしかたありません。そこへ、先生がやってきて、

「トマトちゃんとキュウリくんを植えるのを手伝ってね。」

「はあい。」

トマトちゃんとキュウリくんは、子どもたちのかわいい手のひらに抱っこしてもらい、ふかふかに耕した土地に植えてもらいました。

「このおふとん、とても気持ちいいね。」

「うん、なんだか元気がでてきそう。」

トマトちゃんとキュウリくんは、大喜びです。

「お水をあげると喜ぶよ。」

「わたしも、水やりする。」

「ぼくも、手伝うよ。」

子どもたちは、トマトちゃんとキュウリくんに、毎日せっせと水やりをしました。しかし、何日かたつと、だんだん水やりをする子どもたちが少なくなってきました。

お天気は何日も続いた、ある日のことです。

なんだか、トマトちゃんの様子がおかしいことに気づいたキュウリくんは、トマトちゃんに聞きました。

「トマトちゃん、元気がないね。どうしたの。」

「のどがかわいて、からからなの。苦しくて、からだか、くにやくにやに、なってきたわ。」

と、トマトちゃんは、かすれた声で答えました。

「かわいそうに、お水があれば、トマトちゃん、元気になるのに。」

「雨が降ってくれれば、いいんだけど・・・。」

トマトちゃんとキュウリくんが話していると、子どもたちが通りかかりました。でも、トマトちゃんの様子には気づかないで行ってしまいました。



「誰か、気づいてくれないかな。トマトちゃん、元気を出すんだよ。」

そこへ、ふわっと、しゃぼん玉が飛んできました。

「わたしのしゃぼん玉、どこまで飛ぶのかな。」

「わあ、トマトちゃんのところまで飛んだよ。」

と、子どもたちがやって来ました。

「あれ、トマトちゃんの様子、変だよ。」

「どうしたのかな。元気がないね。」

「お水をあげるのを忘れてたんだ。トマトちゃん、ごめんね。」

子どもたちは、やっと、トマトちゃんのことを気がついてみんなで水やりをしました。

「よかったね。トマトちゃん。」

「わあ、おいしい。だんだん元気が出てきたわ。キュウリくん、心配かけて、ごめんね。」



しばらくして、いつもなら、背すじがぴんと伸びているキュウリくん。今日は何だか元気がありません。

まさひろくんが、お母さんと幼稚園にやってきました。

「キュウリくん、おはよう。あれ、お母さん、キュウリくんの葉っぱが白くなってるよ。」

「よく気がついたね。病気の葉っぱを切り取って、元気にしてあげましょう。」

「うん、ぼくもするよ。」

まさひろくんは、病気になっている葉っぱをやさしく取りました。お母さんは、お菜をつけてくれました。

「少し元気が出てきたぞ。」

キュウリくんの元気な声に、トマトちゃんもほっとしました。

「よかったね。葉っぱが白くなったままだったら、大きくなれないものね。」

トマトちゃんもキュウリくんも、すっかり元気になって喜んでいました。もっと元気になるようにと、肥料もたくさんもらいました。

7月になり、トマトちゃんに、実がたくさんなりました。

ある日、キュウリくんは、トマトちゃんの実の色が変わってきているのを見てびっくりしました。

「トマトちゃん、赤くなってきたよ。どうかしたの。」

キュウリくんは、自分が病気になったことや、トマトちゃんがしおれた時のことを思い出してとても心配です。でも、トマトちゃんは嬉しそうに、

「わたしは、とても元気よ。わたしたちトマトの実はね、子どもの頃は緑色なんだけど、大人になると赤く変わっていくの。」

と、キュウリくんに話しました。キュウリくんはほっとしましたが、

「いいなあ。トマトちゃんは、もうすぐ大人になれるんだ。」

と、少しうらやましそうです。

「キュウリくんだって、ずいぶん背が伸びて、立派になってきたよ。」



キュウリくんは、自分がだんだん大きくなってきていることを知ってとても喜びました。

「すみれ幼稚園に来てよかったね。」

トマトちゃんもキュウリくんも、やさしく世話をしてくれた幼稚園の子どもたちのことが大好きです。

「ぼく、たくさん実をつけて、みんなに食べてもらうんだ。」

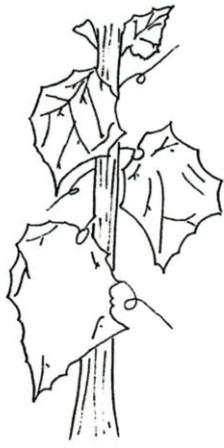
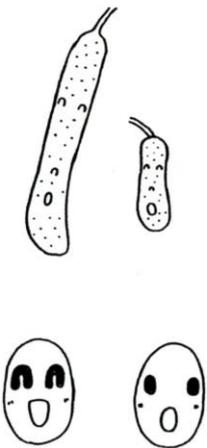
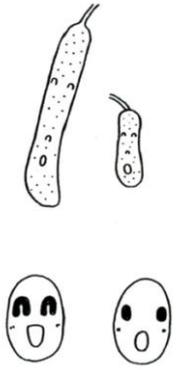
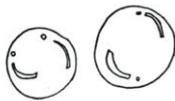
と、キュウリくんが言うと、

「わたしも、甘くておいしい実をたくさんつけて、早くかわいい手で摘みとって欲しいなあ。」

と、トマトちゃんも言いました。

トマトちゃんとキュウリくんは、幼稚園のみんなに食べてもらう日を楽しみにしています。

<パネルシアター>

			
 <p>土 切り取り線にキュウリやトマトを差し込む</p>			
 <p>トマト</p>	 <p>トマトの葉の顔</p>	 <p>キュウリ 緑の葉と枯れた葉を 作って付け替える</p>	 <p>キュウリの葉の顔</p>
 <p>トマト</p>	 <p>トマトの葉の顔</p>	 <p>キュウリ 緑の葉と枯れた葉を 作って付け替える</p>	 <p>キュウリの葉の顔</p>
 <p>肥料</p>			 <p>シャボン玉</p>

(必要な数だけコピーして使用してください。)